

## わが署の体験林業について

(都会の子供達に森林への関心を得るために)

諏訪・諏訪南森林事務所 ○飯沢 秀雄  
業務課森林活用係 笹本 安人

### 要 旨

近年森林に対しては国土保全、水資源の涵養、自然環境の保全・森林レクリエーションの場の提供等、国民の森林に対する期待は大きく又、多様化している中で、諏訪営林署においては自然との触れ合いをつうじながら森林・林業に対する理解を深めるために体験林業・森林教室を都会の子供達等を対象に実施してきている。

今後の体験林業・森林教室の在り方の参考とするため、都会の子供達が森林・林業に対してどの程度の知識を持っているのかアンケート調査を実施した。

### はじめに

諏訪営林署では地元の子供達をはじめ、都会の子供達に自然とのふれあいを通じながら、森林、林業に対する関心を深めることと、国有林のPRを目的に、昭和57年度から14年間に亘り、体験林業・森林教室を実施してきた。

都会の子供達の体験林業・森林教室は、国有林に隣接している富士見高原にある、東京都の多摩市及び板橋区の「少年自然の家」等を集団で利用している、小中学生で、実施箇所は、諏訪南森林事務所管轄区域の八ヶ岳山麓西岳国有林である。

これまで、体験林業で主に実施した作業の内容は、林道沿線の天然カラマツを掘り取り林道法面等への植え付け、造林地の下刈、歩道の刈り払い作業等であったが、昭和62年度からは、カラマツ造林地の除伐2類を実施している。

実施者の数は昭和57年度始めた当初は、年間約320人であったが、実施希望校も年々増加し平成7年度は約2,700人に及び、14年間の総人員は約22,400人となっている。(図-1)

また、この体験林業・森林教室の実施回数は年間を通じて数多く行われることから、その対応も職員数が減少する中では大変な一面を持っている。指導者、講師として森林官または庁内職員が出向しているところであるが、職員の派遣人員によって、平成4年度からは受託事業として料金をいただいております。署の収入にも役立っている。

本年度実施した体験林業・森林教室のなかで、生徒から「今日のように木を伐ることは、自然破壊ではないか」「森林の大切さが分かった」「ノコギリで木を切ることは大変だった」等の質問や意見がだされたので、都会の子供達がどのような知識を持って体験林業、森林教室に参加しているのか、本年度実施した板橋区、多摩市の22校、2,550名の子供達の中から約半数に当たる小学校6年生7校523名、中学校2年生5校790名を対象に、森林教室を受ける前の森林に関する知識と、受けてからの感想等について、アンケート調査を実施したので、その結果について発表する。

体験林業参加者の推移

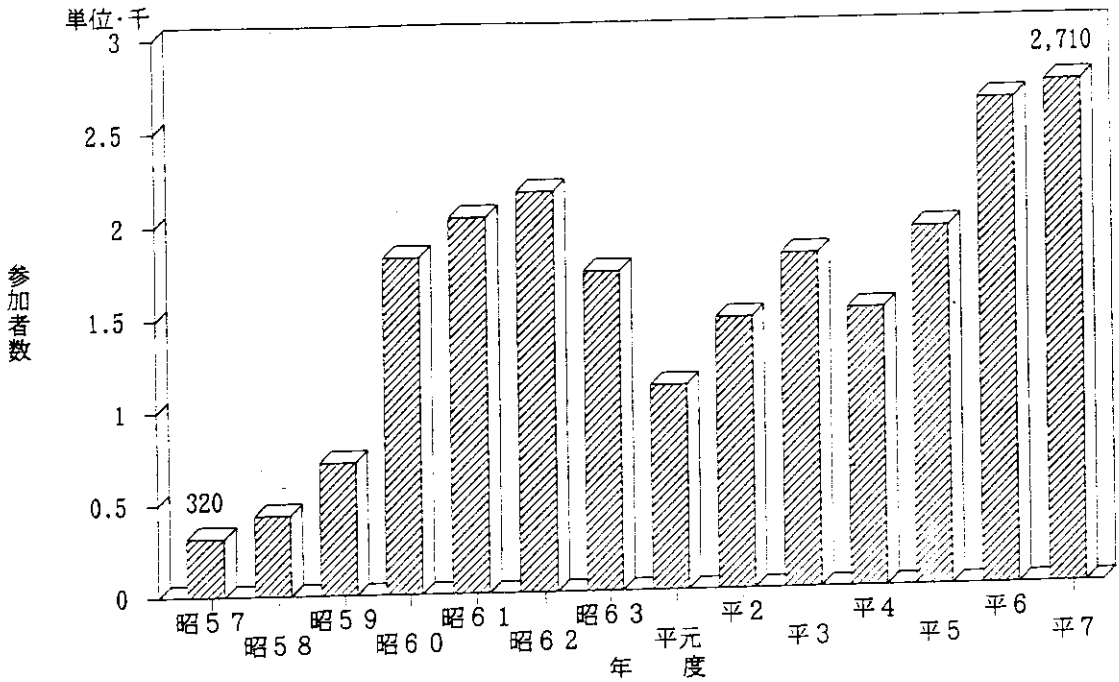


図-1 体験林業参加者の推移

1 アンケート調査結果について

- (1) 「森林という言葉を知っていましたか」という問いに対しては、小学生96%、中学生では97%とほぼ全員の生徒が知っていたと回答している。
- (2) 「国有林という言葉を知っていましたか」に対しては、知っていたと回答したのは、小学生では32%、中学生では31%と少なく、都会の子供達には、国有林はまだ馴染みが少なく、余り知られていないことがうかがえる。(図-2)

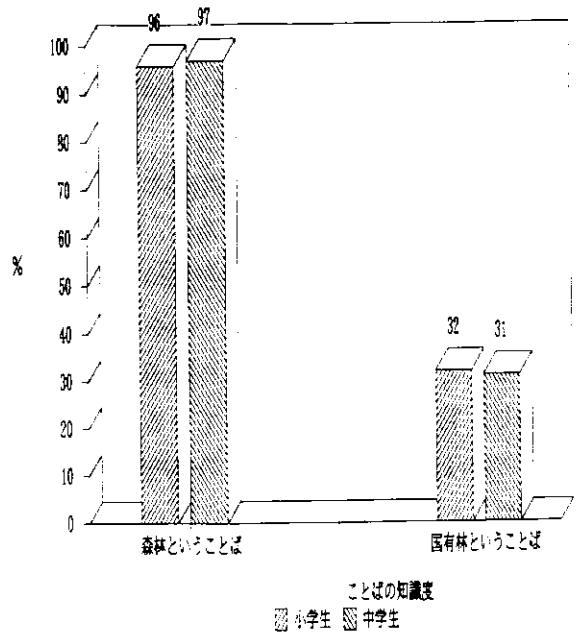


図-2 アンケート調査結果 (言葉の知識度)

(3) 次に「森林の働き」についての質問

ア 「水を蓄える働きがあることを知っていましたか」に対しては、知っていたと回答したのは小学生74%、中学生59%

イ 「がけ崩れなどを防ぐ働きがあることを知っていましたか」に対しては、知っていたと回答したのは、小学生、中学生とも68%

ウ 「きれいな空気を作る働きがあることを知っていましたか」に対しては、知っていたと回答したのは、小学生96%、中学生94%となっている。

「水を蓄える」「がけ崩れを防ぐ」働きについて、30%~40%の子供達が知らないと答えておりますが、特に中学生が水を蓄える働きについて、小学生よりも少ない回答になっているのは以外である。(図-3)

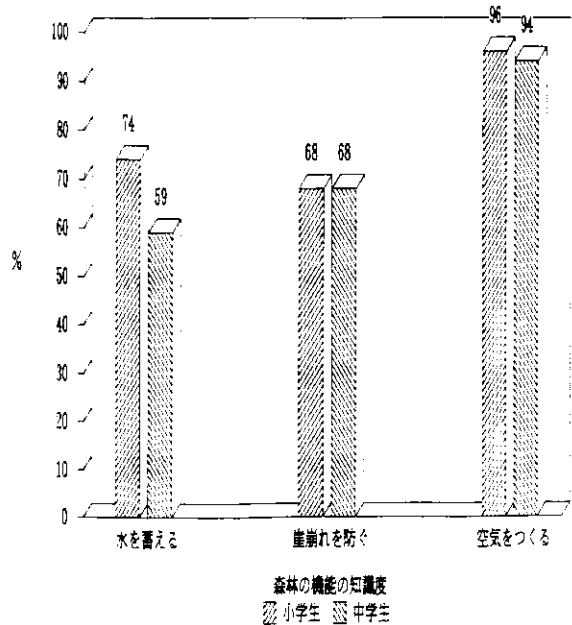


図-3 アンケート調査結果 (森林の機能の知識度)

(4) 「森林を育てるために、人が草刈・抜切等手入れをすることを知っていましたか」という問いに対し、知っていたと回答したのは、小学生では56%、中学生ではわずか39%となっている。都会の子供達は山の作業等を見る機会もないので、知らない子供が多いことは無理もないことと思います。

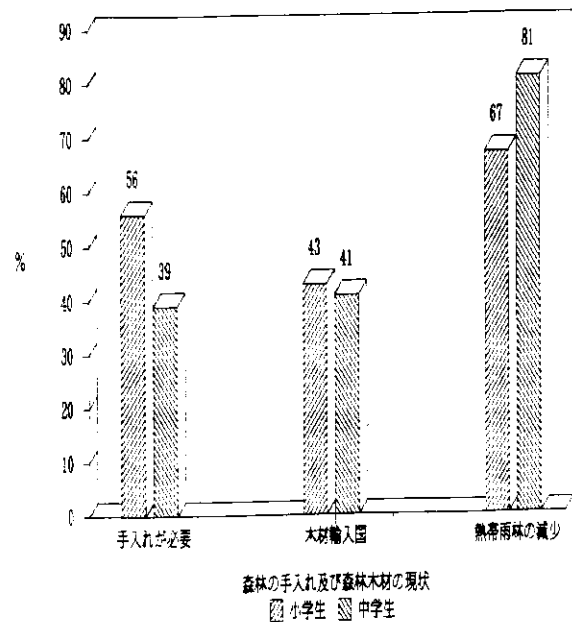


図-4 アンケート調査結果 (森林の手入れ及び森林木材の現状認識度)

(5) 「日本は世界一の木材輸入国であると言う事を知っていたか」という問いに対しては、小学生43%、中学生41%、「熱帯雨林が年々減少していることを知っていましたか」という問いに対しては小学生67%、中学生81%が知っていたと回答している。

(6) 「ノコギリを使った事がありますか」に対しては、小学生では94%、中学生では93%の子供達が使った事があると回答している。

また、ノコギリを使って除伐作業をした後の感想はの問いに対しては、「生きている木を始めて切り良い体験ができた」「簡単に切れると思っていたが大変だった」等の回答が過半数以上を占めている。

(7) 「今後機会があれば再度体験林業に参加しますか」という問いに対しては小学生72%、中学生61%が再度参加したいと回答している。

(図-5)

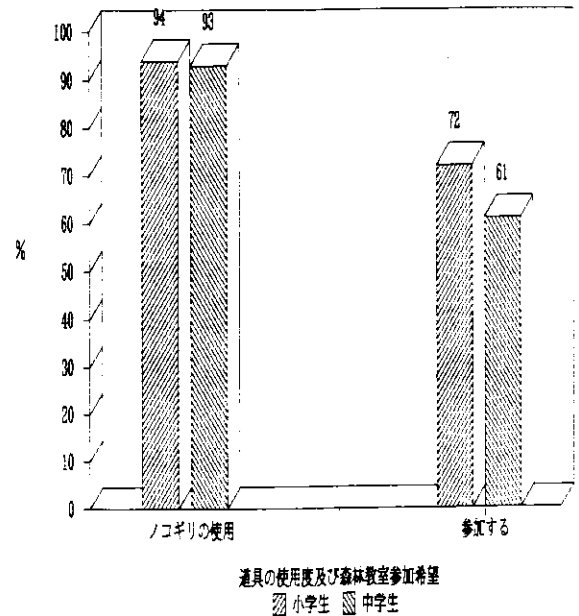


図-5 アンケート調査結果 (道具の使用度及び森林教室参加希望)

## 2 調査結果等から見た今後の体験林業、森林教室の在り方

### (1) 体験林業について

体験林業を実施した感想分の中に「林の中に入ったら土がふわふわしており、とても気持ちがよかった」等自然との触れ合いを楽しんだこと、「自分で作ったコースターは世界にただ1つしかない」と工作を喜んだ様子、また、「木を切ることは簡単だと思ったがノコギリが挟まれ、まがってしまった」等ノコギリの使用に苦戦したことなど、森林や自然に触れあう機会が少なくなった都会の子供達に体験林業は新たな発見と、喜びを与えた事が感想文の中からうかがい知れる。

また、アンケート調査結果から今後機会があれば体験林業に参加したいという子供達が多いことから、今後の体験林業については、

ア 作業をするだけでなく、周りにある土の感触、茸、植物等子供達に直接さわらせ、キノコ、植物の観察を含め自然との触れ合いを積極的に取り入れる。

イ 子供達は自分で作ったものに感激しており、先生からも、切り倒した木を使って何か記念になる工作を、と言う要望も数多くあることから、抜き切り木等を利用した工作を取り入れる。

ウ 調査結果から、ノコギリを使った事のある子供達は多いが、立木の伐倒や丸太切り等に使用した子供達は少ないと推察されるので、作業開始前には必ず道具の使い方と安全指導を行う。

エ 体験林業は作業内容を知るだけでなく、汗を流して労働することの喜びや、共同作業による協調性、自然とのふれあい等多くの体験が得られることから、再度体験林業に参加したい子供達が70%近い希望となっていますので、国有林のPRを兼ねた一般の人達が気軽に参加できる体験林業の実施など、幅広い層を対象に今後の体験林業を考えていくことも重要ではないか

と考える。

## (2) 森林教室について

アンケート調査結果から、都会の子供達の森林林業に関する知識は、平成4年度から小学5年生の教科書に「国土の保全、水源涵養等森林の大切さ」について復活したことや、自然環境意識の高まり等から、ある程度の知識を持って参加していることが分かったが、森林を育てるために、人が手入れをしていることを知らない子供達も多く、また「木を切ることは自然破壊である」という偏った知識を持っている子供達もいることから、体験林業と合わせて「なぜ植えた木は人が手を入れることが必要なのか」等を実態を見せながら分かるように説明する必要があることを痛感したので、今後の森林教室の内容については、

ア 森林を育てるには、

- (ア) 長い年月と多くの労働力が必要であり、手入のために木を切ることは、立派な森林を育てるために必要で、自然破壊ではないこと。
- (イ) 国民一人一人の理解と協力が必要であることを気付かせ、子供達に何ができるかを考えさせる。

イ 森林の機能については、

- (ア) 「水を蓄える」「がけ崩を防ぐ」働き等の説明に当たっては、森林の土の状態、木の根の状況を触らせ示しながら行う。

ウ 国有林の役割とPRについては

- (ア) 国有林は国土面積の約2割を占め国土の保全、水源涵養、自然環境の保全・形成、保健休養の場の提供等森林が持っている公益的機能を発揮させるよう取り扱っていること。
- (イ) 木材等生活に欠かせない林産物などを計画的、持続的に供給していることなど、国民経済、国民生活において重要な役割をはたしている等国有林の役割と、営林署のPRを取り入れた内容の森林教室を実施して参りたいと考えます。

おわりに

体験林業・森林教室を通じ、次代を担う子供達に地球の環境を守り、国土保全を始めとした幾多の公益的機能を有する森林の大切さを、いかに分かりやすく、ただしく理解させるか、短時間の中で全ての理解を求めても無理があるので、小学生、中学生等学年に応じて、ポイントをしばって説明をして理解させていくことが重要であります。そのためには、どのような教え方をすればよいのか、全職員が森林インストラクターとしての資質の向上を図るとともに、署独自のパンフレットの作成、ビデオ等の活用についても検討しながら、森林、林業及び国有林の理解を深めるため、今後とも、体験林業・森林教室を実施して参りたい。